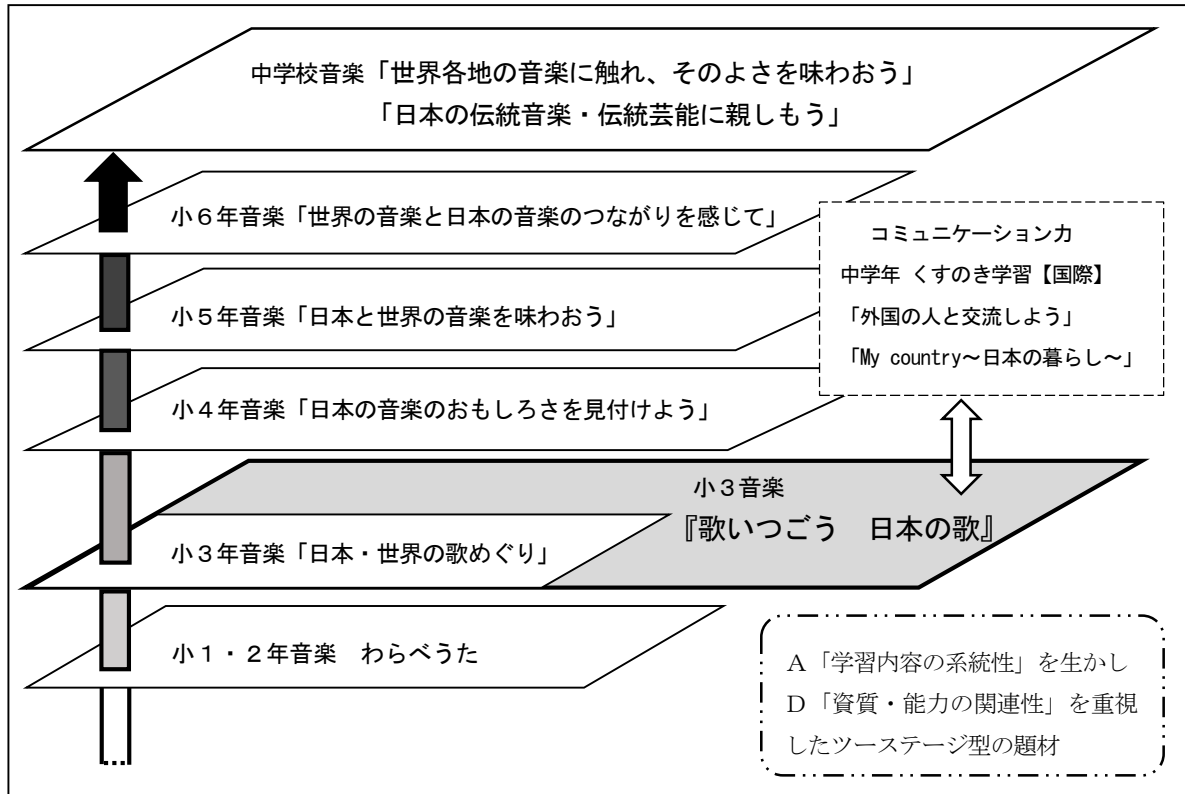


第3学年星組 伝統文化教育〔音楽科〕（+くすのき学習【国際】）

ワークショップ「歌いつごう 日本の歌」 指導者 松井 見磨

木村 勢津（愛媛大学）

1 題材全体構想図



2 題材の構想について

本題材は、A「学習内容の系統性」を生かし、D「資質・能力の関連性」を重視した題材構想である。ここでいう「資質・能力」とは、音楽科の「そうぞうする力」と、くすのき学習【国際】の「コミュニケーション力」である。音楽を通して「人と心を通わせる」ことは、大切なコミュニケーションである。新しい言語や文化を持つ人に出合う期待感を持ち、心を通わせて相手と意思疎通をしながら育まれたコミュニケーション力は、音楽を介したコミュニケーション力を向上させるとともに、「そうぞうする力」を更に高められると考える。また、他者とのコミュニケーションが不可欠であるワークショップ型の授業を取り入れることで、共に音楽をそうぞうする過程を楽しみながら、参加者同士のかかわり合いから、自分の中に生まれる新しい気付きや価値を得ることが期待できる。そしてこの協働体験で得た達成感や充実感は、子どもの大きな成功体験となり、これからの音楽活動への更なる〈自己効力感〉の高まりにつながると考え、本題材を構想した。

本学級の子どもは、朝の会で歌を歌って一日をスタートするなど、日常生活の中でも音楽を心から楽しんでいる。また、わらべ歌や手遊び歌にも親しみ、夢中になって仲間と楽しく元気に自分を表現できるようになっている。仲間と歌声を合わせて意欲的に表現するなか、校内音楽会で聴いた高学年やコーラス部の響きや魅力のある歌声への憧れが強くなり、部活動見学に進んで参加する子どもも多くなってきている。

ここでは、子どもが豊かな表現を楽しむことのでき、多くの人に長い間親しまれてきた日本のうたを取り上げる。それらのうたは、人々の生活や心情と深い関わりをもちながら、世代を超えて受け継がれてきた我が国の音楽文化といえるものである。また、季節や自然などの風情や美しさを感じ取る

ことができるものである。古くから親しまれてきた伝統的な音感覚に根ざした音楽を通じて、感じ取ったことや想像したことを伝え合い、表現を工夫していきながら、我が国や郷土の音楽に親しむ態度も育てたい。

本時のワークショップでは、愛媛大学の木村勢津教授をお招きして、美しい響きを目指した発声法を教えていただきながら、より豊かな日本の歌の世界を体験する。グループで互いの表現の工夫を認め合いながら、自分自身の表現を改めて見詰め直し、それぞれの課題を解決しながら展開していく。子どもと参観者の皆様と一緒に考えたり、日本の歌のよさを味わったりしながら、呼吸や発声、響きの視点から自由に表現できる柔軟な声づくりの追究をしていく。

3 題材のねらい

- 情景や美しいメロディーを感じて、自分が表したい思いに合った表現をしようとする。
- 日本の音楽の特徴や、旋律の美しさを味わって表現を工夫する。
- 音を通じたコミュニケーションを楽しみ、心地よく響く声や音づくりをしようとする。

4 題材の指導計画（全3時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大好きな日本の歌を歌おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の内容を感じ取って歌う。 ○ よりよい表現を目指して、声楽のプロに聞いたことや自身の課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の歌のよさや特徴を感じながら、聴き味わったり表現したりしている。 	1
追 究	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワークショップに参加しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークショップを体験する。 ○ 声楽家の先生にアドバイスをもらう。 ○ 互いの表現のよさや工夫を聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● よりよい表現にしようと考えたり工夫したりしながら前向きに活動しようとしている。 	1 本時
振 り 返 り	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">もっと日本の歌を伝えたいな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの表現を見詰め直す。 ○ 互いの演奏を聴き合う。 ○ 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の新しい考えを持って音楽表現を楽しみ、日本の歌の魅力が伝わる表現に迫れている。 	1

5 題材における指導と評価の工夫

場面	三つの場面ごとの指導と評価の工夫
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月に鑑賞した校内音楽会を、音や映像と共に振り返りながら、そこで感じた思いや憧れを想起したり共有したりして、活動への意欲や期待感を高める。 ・ 「ワークショップに参加しよう」という音楽を通じたコミュニケーション活動を全体の課題として設定することで、自分の課題を自覚させたり活動の見通しを持たせたりする。
追 究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者や自らの表現のよさに気付いたり、認めたりすることができる時間や場を設定して、協働して音楽をそうぞうする楽しさや充実感を感じられるようにする。 ・ どのように表現したいかについて、思いや意図を十分にもつことができるようにするために、そうぞうしていく過程で生まれる新しい気付きを丁寧に見取る。
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本題材を通じて、歌唱表現が更に高まったことを価値付けたり全体で共有したりしていくことで、学びの成果や気付きを自分自身で振り返ったり見詰め直したりすることにつなげる。

6 本時の授業

- (1) 日時 平成31年2月2日(土) 9:20~10:05
 (2) 場所 第2音楽室
 (3) ねらい 日本の歌の歌詞や旋律のよさを味わいながら、よりよい表現の工夫をしようとする。
 (4) 準備物 ホワイトボード、歌詞カード
 (5) 展開

学 習 活 動	予想される子どもの意識の流れ	指導 (○) と評価 (●)
○ 今月の歌を歌う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">今月の歌を楽しく歌おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・声を響かせてしっかり歌おう。 ・みんなと歌うのは楽しいね。 ・この歌は気持ちよく歌えるよ! 	○ 曲の気分にあった歌声を意識させ、自信をもって表現する姿を称揚する。
<div style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> ワークショップ「歌いつごう 日本の歌」 </div> <p>○ <u>わらべうたに親しもう!</u></p> <p style="text-align: center;">表現活動を行う準備段階として、グループに分かれて、コミュニケーションを楽しむ活動を行います。</p> <p>○ <u>「七つの子」を歌いつごう!</u></p> <p style="text-align: center;">愛媛大学の木村勢津先生から、一人一人の声の特徴を生かした曲想にふさわしい歌い方のポイントを、教えていただきます。</p> <p>○ <u>質問コーナー</u></p> <p>○ <u>「ふじ山」を歌いつごう!</u></p> <p style="text-align: center;">さらに豊かな表現を目指していきます。また、子どもチーム・大人チームの歌声をお互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを認め合ったり共有したりしていきます。</p> <p style="text-align: center;">♪ 変化する歌声や、共鳴する響きの美しさを 是非、子どもたちと一緒に体験・体感して下さい!</p>		
○ 本時の活動を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もっと声を響かせたいな!</div> <ul style="list-style-type: none"> ・木村先生みたいな大人の声になりたいな。 ・皆さんと歌うとより素敵な音楽になったね。 ・家でも家族と一緒に歌ってみようかな。 ・もっとうまく歌えるようになりたいな。 	● 日本の歌のよさや特徴を感じながら、より美しい響きにしようとする工夫ができたか。 [様態・発表]

7 評価の具体的な方法

	〈自己効力感〉が高まっている姿を見取る視点	目指す姿 [主な評価方法]
出 合 い	<p>○ 日本音楽がもつ、人と人とを結びつける根源的な力を感じながら、これから始まる更なる発展的な活動へ期待感を感じているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歌を歌う喜びを味わい、課題を前向きに受け止めながら、どのように歌いたいか思いや意図をもって表現しようとしている。 <p>〔・わらべうたに手拍子を入れると楽しいよ！ ・日本の歌をもっとすてきに歌いたいな。 ・曲によってふさわしい歌い方があるのかな？ 等〕</p> <p>[様態・対話・発表]</p>
追 究	<p>○ グループで協働して音楽表現を追究する楽しさを味わいながら、他者の表現のよさや違いを見付けたり、共感したりしたことを取り入れながら活動しているか。</p> <p>○ グループでの関わりを通じて得られた、新たな表現方法や気付きを試しながら、曲の特徴を捉えた表現の工夫をしようとしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新たな意味や価値を生み出すワークショップにおける活動を楽しみ、主体的に歌唱表現を工夫しようとする取り組みをしている。 <p>〔・どんな歌い方の工夫をしているのかな？ ・呼吸の方法を私も試してみたいな！ ・そんなやり方もあるんだね！ ・聴いてもらってアドバイス欲しいな。 等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いや意図を十分に持って、響きのある歌い方を目指して試行錯誤し、自分にとって価値のある音楽をそうぞうしていく過程を楽しんでいる。 <p>〔・言葉の響きを生かした歌い方がいいね。 ・もらったアドバイスを試してみよう。 ・言葉がより伝わるにはどうすればいいかな。 ・曲によって歌い方を変えてみよう。 等〕</p> <p>[発表・表情・様態]</p>
振 り 返 り	<p>○ 題材を通して進んで日本の歌にかかわり、協働して表現する楽しさを感じるとともに、ワークショップの体験から達成感や満足感を感じているかどうか。</p> <p>○ そうぞうした新たな音楽を見詰められ、更なる発展性を見いだしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップに参加した経験から得られた新しい気付きを、より確かなものにしようとしている。 <p>〔・日本語のよさを生かした歌い方が分かった。 ・みんなそれぞれのよさがあっていいね。 ・もっと日本の歌のすばらしさを伝えたいな。 ・自分らしい表現ができそうだよ。 等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の学びを通して、更にもっとこんなこともやってみたいと思っている。 <p>〔・またたくさんの人と歌いたいな。 ・家族と一緒に歌ってみようかな。 ・日本の歌がもっと好きになったよ 等〕</p> <p>[様態・対話・自己評価カード]</p>

